

留学生通信

外国で働くのはいかが？

How about working abroad?



マルチン ツヴィクリンスキ
Marcin Cwiklinski

■2003～2009年ロジテクニカル大学ロボット・機械制御工学科修士課程修了（ポーランド）、2006～2007年コヴェンツリ大学 機械工学科に留学（イギリス）、2008～2009年アヴェイロ大学 機械工学科に留学（ポルトガル）、2007～2008年 CELLS 電子工学系の仕事に従事（スペイン）、2010年（株）日立製作所 機械研究所にインターン留学中（日本）

■留学先

（株）日立製作所 機械研究所 輸送システム研究部 先端ロボットユニット（2010年8月まで所属）
〒312-0034 茨城県ひたちなか市堀口832-2

E-mail : mcwiklinski000@gmail.com)

1 はじめに

約1年前、私はインターンと日本語学習のためポーランドから来日した。ポーランドはヨーロッパのドイツとウクライナの上に位置する国である。私は多様な文化について興味があり、外国に実際に住んで、異なる文化を体験することが好きである。多様な文化を学ぶことは自分自身をいろいろな角度から見つめなおすことができ、また国際的に活躍するためのキャリアアップにもつながると思う。上記文化交流以外にも、私は最先端技術を体験するという目的から、日本に来た。ポーランドには、日本にかかわる多くの団体や学校がある。また、毎年、日本文化を体験できるイベントがあり、日本の芸術家たちが文化を伝えに来る。

2 外国への第一歩

外国から訪問する人々にとって、新しい文化との出会いは、少しだけ不安になるが、それ以上にとっても刺激的で、些細なことに対しても感動を覚える。新しい言語、異なるふるまい、習慣、伝統に、はじめのうちはなじみがなく、たまに変だなおもすることもある。日本の場合は、どこを見ても輝くネオン街があり、色とりどりの電光掲示板があり、洋服屋の店員さんは山彦のようにいらっしゃいませと唱えながら近づいてきたり、花粉の季節ではみんながマスクをしたり、などなど数え上げたらきりがなくらい私にとっては不思議なことがいっぱいである。ただ、しばらく一緒に生活することで、次第に刺

激的だと思っていたことが普通に感じるようになり、振り返ればその土地に住めたことに感謝するようになる。

私には以前、ポーランド以外の国で働いていた経験が、日本での最初の数週間に大変役立った。私は、故郷のポーランドの大学で3年間学んだ後、国際的な環境で勉強するために、イングランドとポルトガルへ渡った。ポルトガルはポーランドとは異なり日差しが強く、街並みがまぶしいほど明るく、文化の違いを体験した。歴史的建物がきれいに保存されているアヴェイロという街に滞在し、アヴェイロ大学に通っていた（図1, 2）。また修士課程の間、スペインでは最初に設置されたバルセロナにある放射光研究室ALBAで働く機会があった。ここでは中国をはじめ、ペルーやフランス、ドイツなど、20カ国以上の異なる国籍の人々と一緒に働くことができ、大変貴重な経験だった。そして大学院を修了後、日本へ来て、企業で働くチャンスを得た。

3 さらになる機会

外国で働くことは、単に観光することとは大きく異なる。観光者は、あくまでも外から現地の文化を見学するため、その土地の歴史や背景や流行りごとなどの一部しか学ぶことができない。また、主にガイドブックに記載された土地だけにしか足を運ばないため、多くの発見ができない。一方、外国で働き生活するという事は観光とは全く異なる。現地の方々と一緒に働くことで、物事を相手の立場になって見ることができる。例えば、日本での



図1 都市郊外の大学キャンパスとヤシの木並木 (アヴェイロ, ポルトガル)



図2 伝統的な色使いと聖書か歴史をモチーフとする青タイル絵を持つ典型的なポルトガルの家 (アヴェイロ, ポルトガル).

ビジネススタイルの例を挙げると、いただいた名刺をすぐにポケットに入れない、自分の働く場所を自分で掃除する、飲み会の会計は目上の方が多く支払うように重みをつけて割り勘することなど、学ぶべき点が多くあった。このような繊細な事柄は、決して観光するだけでは気づくことができず、その国で働いてはじめて気づくことのできる価値あることだと思う。

もちろん、外国で生活することの楽しみは、身近な生活の中での価値ある発見だけでなく、観光旅行にもある。週末や休日はたくさんあるため、外国から短期間だけ訪問し観光することとは異なり、計画的に焦らずゆっくりと旅行できるのが魅力の一つである。この1年で、私は日本のさまざまな場所へ行き、いろいろな経験をした。た

例えば、石垣島でオニトマキエイとダイビングしたり、西表島で熱帯雨林を歩いたり、屋久島で壮大なスギの森を見たり、夜の富士山に登ったり、凍った袋田の滝を見たり、北海道でスキーをしたり、東京で茶道に参加したりと、数え上げたらキリがない。短期間のみ滞在する観光客では、これらすべての経験をするには、非常に難しいだろう。

4 おわりに

国際的に活躍する企業は、多民族で構成されるため、円滑に業務を実施するには、社員はお互いに他国の文化・価値観を理解することが重要になる。このため、私は、外国で実際に生活し、現地の文化・価値観を直接学ぶこと

が、最善の方法だと思う。外国での生活・仕事の経験は、他の民族との文化の違いをより深く理解することができる。不要な偏見や知らない土地で働くことの不安をなくすることができる。前述のとおり、シンクロトロン ALBA では 20 カ国以上の異なる国籍の人々が働いていた。ALBA での同僚の多くは、母国語で情報交換することができないにもかかわらず、国際的な環境で働くことができていた。外国での日々は、同じ環境で働く人々との交流を深めることができ、かつ思いもかけないことに満ちたすばらしい冒険である。

さあ皆さんも、外国に目を向けよう。たとえばポーランドに。